

## 1 委員会研究テーマ

人権を尊重し、あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるための指導のあり方

## 2 研究内容

### (1) 公開研究授業

期日 : 平成24年11月7日(水) 須坂市立東中学校

授業学級 : 1年2組(男子19名 女子17名 計36名)

授業者 : 岡部温樹教諭

指導者 : 伊那市立東春近小学校 清水稔校長先生

題材名 : 「異なった文化の中での生活」

授業場面 : 外国籍生徒2名と一緒に生活している1年2組で、言葉が通じないストレスについて考え、外国籍生徒がどのような思いで今まで日本の学校で生活してきたかを知り、2人の気持ちに思いを寄せた。

### (2) 研究内容

部落差別をはじめ、あらゆる人権問題の解決を目指すためには、自分も友だちも大切にすることを育てることが重要である。外国籍生徒との関わりをはじめ、人権にかかわる様々な学習を積み重ねることによって、自ら人権問題を解決していこうとする意欲と実践力を身につけるために、

- ・異文化の理解(タイ語、タイの料理、タイの風習)
- ・小林フィデアさんとの交流(日本での苦労、差別に遭った時の心境、お互いの理解)
- ・疑似体験ゲーム「バーンガ」(言葉が通じないことやルールが分からないために生じる不安な気持ちを体験し、文化の多様性を尊重し、積極的に共生する態度の育成)
- ・言葉や文化の壁(言葉が通じないストレス、外国籍生徒の気持ち、親の思い)

などを単元の中で学習した。

「生活面、学習面で困難を抱えている仲間を理解し、共感できる生徒」

「文化や習慣の違いを理解しつつ、お互いに歩み寄っていける生徒」

「人それぞれ違った環境の中で生きているので、国籍や地域差、男女差、世代差などを越えて、お互い理解していこうとする生徒」を育て、対等な関係を築きながら、共に生きていくことができる多文化共生社会に向けて歩んでいけることを願い研究を進めた。

## 3 研究の成果

### (1) 研究授業から

#### ○前時の振り返りから

バーンガというゲームを行い、違うグループに行ったらルールが違っていて、お互いにしゃべってはいけないので、困ってしまった。文化の違う所に行っても困ってしまう。どうしたらいいか、という先生の問いかけに対して

- ・文化に合わせる努力をする。
- ・コミュニケーションを取るようになる。
- ・自分の文化を伝えたり、その国の文化の良い点などを認めたりする。
- ・困ってしまう。きっとS君やPさん(外国籍の生徒)も日本に来て困っているだろう。我慢して生活していると思う。

などの意見が出された。今までのクラスの実態から、S君やPさんの思いを感じ取れていない生徒がほとんどであったが、単元が進むにつれて2人の日本での生活に思いを寄せることができるようになってきた。

#### ○言葉の通じないストレス

外国のカラオケボックスで、全く言葉が理解できない曲が流れる中、外国の方と一時間一緒に過ごしたら、どんなことを感じるだろうか、と先生が問いかけた。

・分からない言葉で、少し怖い。 ・一人ぼっちで寂しい。

・分からない言葉でマイクを渡されると怖い。

などの意見が出された。何も歌わないで1時間じっとしていると、そのストレスの大きさは、両親が亡くなった時に感じるストレスと同じ大きさだと説明があった。

・日本にいる外国の人はすごくつらい思いをしている。仲間になりたい。

・言葉や文化が違って、楽しく遊びたい。

・S君やPさんもこのような思いをしていたんだ。

などの意見が続き、そこからS君とPさんも思いを語ってもらった。

#### ○ Pさんの思い（抜粋）

日本に来て言葉が分からず、不安でした。だけど友達と一緒に遊んでくれて嬉しかった。漢字は難しく、覚えられなかった。中学では違う小学校の友達もいましたが、自分が何か言っても分からないと思い、何も伝えませんでした。もっと伝えたいと思います。授業も分からなくて不安です。でも友達が助けてくれて良かったです。キャンプでは友達と話せて、すごく楽しかったです。トランプ（バーンガ）は楽しかったけどおもしろかった。この楽しさとおもしろさは、毎日続けたいです。

#### ○ S君の思い（抜粋、母通訳）

学校で勉強するのに、言葉や生活習慣が自分の国と違うのでもって心配でした。日本で生活できるか心配です。お母さんの友達の子は、3日しか通えなかったのでもって僕は心配でした。学校で勉強してみたら、みんな親切で毎日楽しく勉強できました。

しっとりとした雰囲気の中で、クラス全員が2人の思いの心を寄せた時間が流れた。

・ジェスチャーをしたり、ゆっくり話したりしていきたい。

・友達を大切にして、みんなが笑顔になれるように明るいクラスにしていきたい。

最後は先生の「学級目標の『笑顔の花を咲かせよう』のように、36人が笑顔いっぱいになるといいと思います。」という言葉で授業が終了した。

#### (2) 授業研究会から明らかになったこと

・今回のような授業を仕組んでいくことが、「いじめのない学級づくり」「一人ひとりが安心できる学校づくり」につながる。

・異文化の理解・フィデアさんとの交流・バーンガ・本時の授業と流れていくが、扱う内容や授業の仕組み方がよく研究されている。フィデアさんとの交流で差別の問題などについても考えたり、バーンガを取り入れたりしたのも良い。ルールが分からないので、「自分がわからない」ということの意味や「少数派のつらさ」ということを体験できる。これらの学習・体験・活動の経過で生徒達の意識も変わった。

・担任の先生の「Pさん、S君のことをみんなで考えていく事が、一人ひとりを大事に考えていく事なんだ」という姿勢が素晴らしい。最後の場面で生徒が、先生の言いたい事を代弁してくれた。また他の生徒達も授業をやっていく中で、思いが深まっていく様子を感じることができた。

#### (3) その他

・授業が終わり下校の時間になった時、PさんとS君の明るく笑顔で下校していく姿を見ることができた。

・その後の学校生活の中で、Pさんが自分の思いを語れたからか、以前よりも明るくなったと、授業者の先生から連絡があった。

## 4 来年度への課題

### (1) 研究の成果から来年度の研究へつなげる課題

・具体的な人権課題に即した個別的な視点と、人権一般の普遍的な課題の両面から今後も研究をすすめていきたい。(昨年は障がい、今年外国籍)

### (2) 研究推進や運営について

・世話係の先生のご指導のもと、推進委員の先生方も毎回参加していただき、内容の濃い研究を行うことができた。推進委員の人数等も適切かと思う。